



地域に遺る建築文化遺産に関する調査と研究

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科／日本建築歴史

小山 祐司 KOYAMA Yuji

教授、工学修士

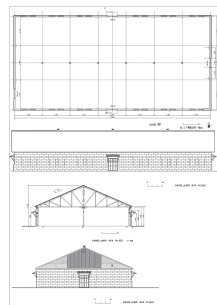


1. 研究内容

地域に遺る様々な資産の中で、これまで、建築的調査が実施されておらず、評価が定まっていない建築遺産を実際に調査し研究する。

この調査を建築史的な観点から行うことにより、復元的な知見を得ることにより、当初から中古を経て現在までの建物変遷も明らかにしてきた。その上で文化財や観光などの資源活用を検討する。

小山研究室ではこれまで、行政機関から様々な歴史的建造物の調査を依頼され、調査結果を報告しながら当該建物の評価を行っている。



多賀城市旧海軍工廠調査
建築図面と写真

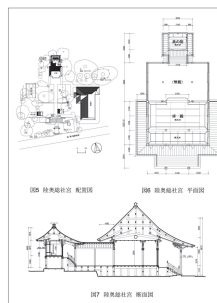


2. 地域・産学連携の可能性

地域には、多くの建築文化遺産が、埋もれたままかろうじて遺っている場合や、評価を受けないまま取り壊されていくものがある。一旦、失われるとそれを、作り直すことは不可能となる。ましてや、その記録も遺さない場合は、地域に痕跡としての記憶さえも失われてしまう。それらの建築遺産は、その地域の関連において形成されたものであり、地域の場所性（「らしさ」、特徴）を成立させていたものである。地域の有り様を様々な検討する時、その地域性を土台に置くことが、必須と考えられる。そのためにも、本研究は、有意義であると考えられる。

多賀城市から、同市に遺った旧海軍工廠の建築遺産の調査を委託された。多賀城市は今日産業都市として発展しているが、そのルーツは戦前の海軍工廠開設にあった。

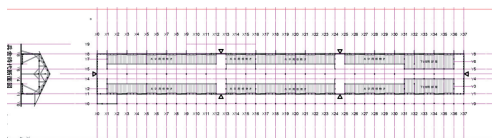
残念ながら調査対象となった建物の多くは、東日本大震災による被害を受けており、調査後に取り壊されたが、記録として残すことが出来た。



多賀城市社寺建築調査
建築図面と写真



青森県鰯ヶ沢町
旧陸軍演習場兵舎
建築図面と写真



執筆論文

1. 小山祐司、他「旧多賀城海軍工廠の調査－多賀城市文化財調査報告書第124集－」多賀城市教育委員会、2015.3



建築遺産（文化財）、建築史的調査、建築的評価、活用計画